

第9回 SGRA チャイナ・フォーラム「日中 200 年—文化史からの再検討」  
～アンケート集計結果～

【1】フフホトフォーラム

日時：2015 年 11 月 20 日（金）15 時～

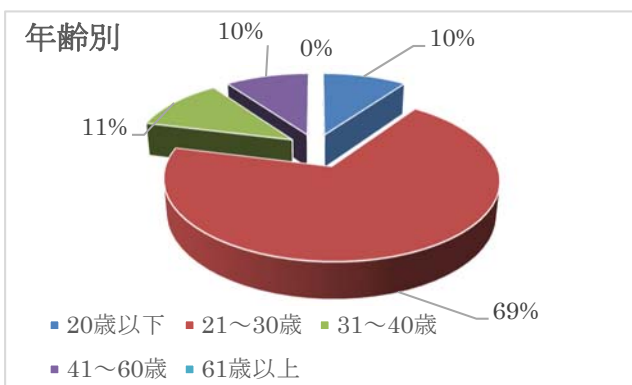
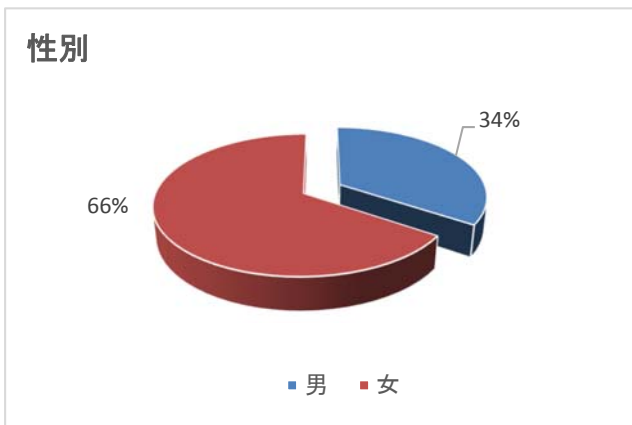
会場：内モンゴル大学モンゴル歴史学部

【2】北京フォーラム

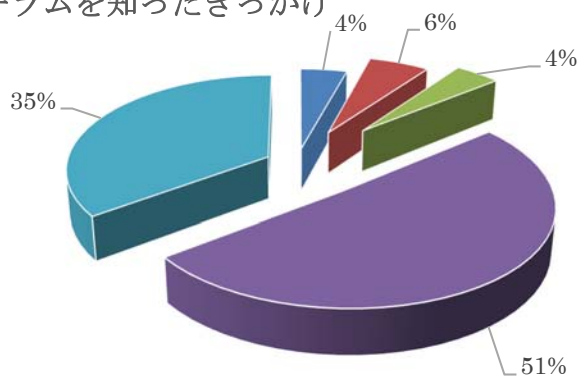
日時：2015 年 11 月 22 日（日）15 時～

会場：北京大学

アンケート総数：72

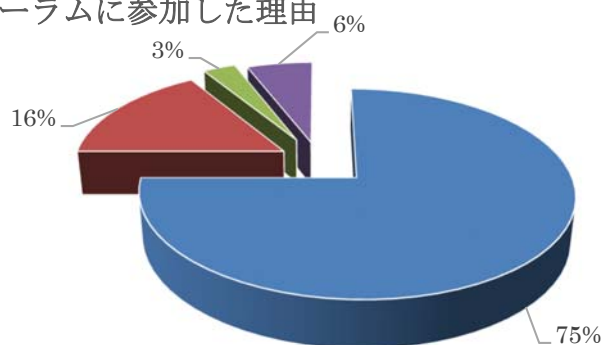


### フォーラムを知ったきっかけ



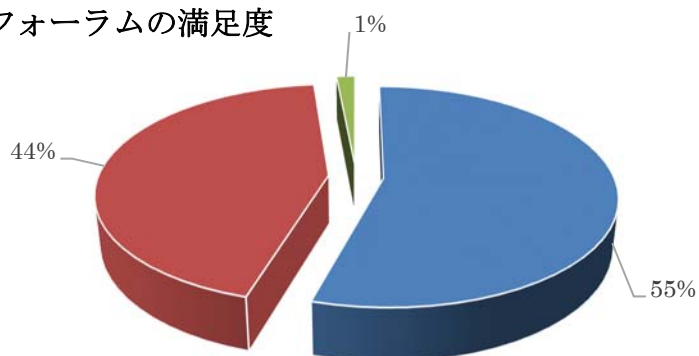
- かわらばん
- 清華東亜文化講座の案内
- 北京日本文化センターの案内
- 知人・友人の誘い
- その他

### フォーラムに参加した理由



- 内容に興味があった
- 知人・友人に誘われたから
- 時間が空いていたから
- その他

### フォーラムの満足度



- 大いに期待通り
- 大体期待通り
- 期待したほどではなかった

## 自由回答欄

### ➤このフォーラムは期待どおりでしたか？（＋その理由を具体的に）

- ・ 中日文化の変遷と相互作用のプロセスを知り、大变得るものが多く、視野を広げました。
- ・ 対立や衝突を極端に強調する現状から脱出して、グローバルな視点で中日関係を捉え、東アジア圏の近代化を捉えられるようになりました。
- ・ 国家、民族史の観点から抜け出し、文化交流における中日関係を理性的に分析すべきだと思いました。
- ・ 文化力及び漢字のリターンという概念が非常に重要である。
- ・ 文化に対する宣教師の影響には感心せざるを得ません。宣教師という団体に非常に興味を持ちました。
- ・ 中国と日本の間における文字の受け止めとフィードバックに関する知識を得ました。
- ・ 19世紀から20世紀半ばにおける東アジアの文化史をよりよく知ることができました。
- ・ 200年にわたる中日の深い交流、相互作用と影響について、新しくて深い認識が得られました。
- ・ 古代史の研究者にとって、近代史の講義を受けることで非常に重要なヒントが得られました。研究の方向性や思考力などが特に参考になります。
- ・ 個人利益と社会利益が文化歴史に与える影響、及び社会発展にもたらす結果は何か。
- ・ 以前は文化にあまり注目しなかったのですが、今回のフォーラムを通して得るものがありました。
- ・ 中日文化関係に新たな認識が得られ、歴史を知ることもできました。中日関係は戦争ばかりではなく、文化の関係をもっと知る必要があると思います。
- ・ 中日文化交流の影響と文化の流れ。「中国が先駆けて西洋から学ぶ」、「日本が中国から学ぶ」、「中国が日本から学ぶ」というような流れは中国と日本の発展に影響を与えてきました。文化は、孤立した個体ではなく、多種多様なものであるように思います。
- ・ 専門的に興味を持ってなければこの短い時間に一定以上の収穫があったと思えるレベルの理解に達するにはなかなか難しいことのように感じた。しかし、方向性として考えるきっかけは得られました。
- ・ 中日歴史の理解、文化歴史の再認識
- ・ 劉教授のお話を通して、中日交流に新たな認識が得られました。
- ・ 丁先生の通訳が素晴らしかった。
- ・ 研究は視点が重要（方法論）
- ・ 同時通訳が素晴らしかった
- ・ 日中近代における西書漢訳書籍という劉建輝先生のお話から大きな気づきが得られました。
- ・ 新たな知識と知恵が得られ、考え方も更新されました。多面的に聞くことで、多角的に理解することができました。
- ・ 目下、中日政治経済関係の厳しい状況において、中日間の新たな接点と既成の接点はどこにあるのでしょうか。
- ・ 内容が豊富で奥深かったです。

### ➤フォーラムについての感想、コメント

- ・ 言語、文学など様々な内容と形式による交流も含めて、中日間の文化交流を知ることができました。中日間の200年は戦争や外交だけではなく、より盛んに行われたのが文化交流であると思いました。
- ・ 歴史を知り、交流を重視することが非常に重要である。

- ・非常に得るものが多かったです。事前に前提知識を得るために、関係書籍や論文を提示してほしい。
- ・近代史について新たな認識ができました。
- ・対立を極端に強調するのは中日関係に百害あって一利なしであり、より客観的、冷静にお互いのことを捉えるべきだと思いました。
- ・今回のフォーラムは東アジア文化の相互推進というプロセスの中から、改めて中日関係について探りました。これまで、本体、本国、本民族の文化を強調するあまりに、近代化の200年に渡る相互作用、相互促進を重要視してこなかったのだと思います。より大きな世界情勢の中で、中日両国の双方向的な文化交流を改めて重要視する必要があるように思います。
- ・ひっきりなしに戦争や侵略のことに言及するのは、双方にとっても意味がありません。前向きな姿勢で、互いに受け止め合うような文化史観が最も重要である。
- ・学術という分野においてははっきりとした境界線はありません。何百年もわたる中日文化については、より他方で分析すべきだと思います。文化の衝突がしばしば起こりますが、十分輝かしいものであると同時にそこから学ぶべきであり、研究する価値も大いにあると思います。
- ・今回のフォーラムに大いに啓発されました。知識体系への影響、漢文体系、日本文化の影響などに関連しています。これらについてはいままで巨視的な認識がなかったので、今後ともこのようなテーマで講義をしてほしいです。
- ・歴史は多角的に研究すべきだと思います。日本の自己肯定は民族精神の向上に繋がり、そして各分野の著しい発展を促しました。文化は???の発展と互いに影響しあうことができます。(※一部解読不明)
- ・異なる時代の文化・言語は違うものの、もともとある漢字は組み合わせさって一つの言葉をなしていることが分かった。
- ・200年にわたる中日両国の相互作用と影響
- ・文化史の視点から近代中日関係の新視界を再構築することができました。今度の講義で、現代民族の構築において、近代中国に対する日本の文化反哺が強調されています。とくに、近代の「国民性再構築」や「五四運動」などの思想潮流について新たな解釈をしていただき、中国近代化の成り立ちや事実をある程度知ることができました。
- ・中日文化交流史を切口に着手し、経済、観光、文化など様々な面から紹介していただき、典型的な用例として蒙疆や張家口なども出されました。二百年の中日交流を双方向的に解釈していただきました。
- ・文化の角度から中日関係を語っていただき、印象深かったです。当時の蒙疆と張家口及び蒙古地区の内容に特に興味を持ちました。
- ・はがきから得られた歴史は非常に興味深いです。西洋の文化、書籍の流通と翻訳についても新たな認識を知りました。中日文化の相互作用と影響にも認識が更新され、たくさん勉強になり、得るものが多かったです。
- ・中日関係に関する目新しい解読を拝聴でき興味深かった。歴史と現実社会の文化を関連付けてきたところは特に斬新的でした。
- ・地域、民族、国家の境界線を超えるのは、文化や歴史などの問題をより深く研究すること、より大きな飛躍を遂げること、より輝かしい未来を迎えることに繋がるのではないのでしょうか。
- ・中日文化の相違点と類似点を知ることができ、意義深いものだった。日本の文化政策と教育政策を知ることができ、今後の研究に役立ちそうです。
- ・モンゴル史関係、東アジア史におけるモンゴル史の位置付けなどの諸問題を巡るフォーラムの開催を希望します。
- ・視野を広げることができました。戦争に限られての認識だけでなく、文化史の角度から中日関係を捉えられる

ようになりました。

- ・文化の影響が社会変化の原動力であるというのを知るのは、大きな収穫でした。もっぱら政治や経済などの問題のみを考え、強調すべきではないと思いました。とにかく得るものが多かったので、このスペースで表しきれません。
- ・国際学生（留学生？）の全体が公平な援助を受けられるでしょうか。周辺的な問題ではあるが、たくさんの情報を与えてくださいました。東北地方や華北地方の歴史形成と変遷が一言二言でははっきり言えるものではないと推測できました。
- ・中日 200 年。以前は戦争と外交に関心を持っていましたが、今は文化の側面からも中日関係を捉え直すようになりました
- ・異なる角度で歴史を捉えることで大いに啓発され、思考も促されました。知識を豊かにし、物事の見方も多様化しました。
- ・蒙疆時代の写真は面白いと思います
- ・リアルで分かりやすかったです。
- ・中日関係はずっと敏感な話題になっています。日本のことを話すとなると、多くの中国人は歯を食いしばるくらいの憎しみを抱きます。しかし、これらと関係なく、中日文化交流の長い歴史と事実を抹殺することはできません。
- ・中日関係、200 年、文化史、中国文化と日本文化の相違点と対照
- ・文化の影響は文化面のみならず、人の生活、国家の政治、経済などあらゆる面に関わっています。文化の力で中国と日本の問題を解決する力があります。問題に対して、多方面で対応すべきだと思います。
- ・中日交流において、互いに相手国の長所を取り入れていることを学びました。何百年前から現在、そして将来も中日交流が続いていることを信じております。
- ・今回は 200 年間ということだったが、もう少し現代寄りの視点を想定して参加しました。思っていた方向性とは違いましたが、文化の流れや比較考証の仕方を知る貴重な時間となりました。
- ・民族主義は歴史研究で避けるべきものだと思います。これらを取り除いた後、文化交流における中日の近代の関係性についてみることができました。
- ・通訳専攻の学生として、今度の参加目的は同時通訳の業務と実力を体感することだったのですが、次第にフォーラムの内容にひきつけられ、今までのない考え方を聞くことができ、知の更新ができました。
- ・広い視野で物事捉えられるようになってはじめて、有意義な研究成果が出せるのではないかと思います。
- ・今回のフォーラムは内容が充実しており、同時通訳者も優秀で、講演とディスカッションも非常に素晴らしかったです。大変良い勉強になりました。
- ・たくさん読書して、新聞を読んで、たくさん考えることが必要であると思います。
- ・講師もコメンテーターも素晴らしくて、会場運営も行き届いています。
- ・中日二百年文化歴史のリレー講義（中国語：大串講）を通して、中日間に対する理解がより整合性のあるものになりました。
- ・先生方に様々な角度から中日の 200 年を探っていただいたおかげで、歴史をより深く理解することができました。最も重要なのは、これらの問題を発見する方法をいくつか学べたことです。
- ・中日 200 年の歴史について、忘れられがちまたは重視されてこなかった歴史事実や現象が掘り出されました。
- ・劉建輝先生の中国での話が面白かった。

➤今後フォーラムで取り上げてほしいテーマ

- ・ 中日文化、教育の話題
- ・ 内モンゴルと日本国の関係史
- ・ 若者や大学生の間の交流を促進できるかどうか。東アジアの平和と発展など議題をより広げられるかどうか。
- ・ 宋版書籍の流出、保存
- ・ 中日文化交流 特に近代モンゴルと日本の文化交流
- ・ 東北アジアと周辺地域の歴史文化研究
- ・ 話題…宣教師という団体に対する分析、希望…講義の回数を増やし、範囲を縮めること
- ・ 内モンゴルと外モンゴルの題材や話題をより多く取り入れていただきたいと思います。
- ・ 「9・18」から蒙疆政府の時代まで、モンゴルの文化、言葉、出版及び商業の発展プロセスといった話題に興味を持っております。
- ・ 清の時代において、モンゴル語の多言語に与える影響も知りたいです。
- ・ 近代中国の北方国境に関する話題
- ・ 東アジア文化の共通点などは、受講者が多いはずですが、国内で研究資料が少ないです。
- ・ 図や地図の応用もしていただければと思います。
- ・ 国民時代のモンゴル地区に関する資料と日本で行われる研究の状況を知りたいです。国内で民国時代の資料はなかなか入手できないため、最も重要なのは、資料の公開だと思います。
- ・ 幕府と大名 中日関係の発展
- ・ 近代中日関係、中日交流など、非常に素晴らしい話題だと思います
- ・ 元の時代と日本の貿易関係、モンゴル史に対する日本の研究
- ・ モンゴルの文化、内モンゴルの近現代史、歴史古文の解読、日本における仏教の伝承と現状
- ・ 中国のモンゴル族は周辺地帯ですので、国境の辺地により多くの学術支援がいただければ幸いに存じます。
- ・ 抗日戦争時代の日本と中国の東北三省
- ・ 抗日戦争時代の日本、内モンゴルと外モンゴル
- ・ 古代からの中日文化交流概論、中日思想史
- ・ 社会学、言語学関係の知名度のあるフォーラム
- ・ 中日交流の現状、内モンゴル大学で引き続きフォーラムを開催して下さいますようお願いいたします。
- ・ 中日文化交流と発展
- ・ 日本人とモンゴル人の関係、私から見れば、モンゴル人と日本人の顔が非常に似ているようです。それはなぜなのでしょう。血縁があるのでしょうか。日本人とモンゴル人の関係を知りたいです。
- ・ 日本はなぜ中国侵略という歴史を改ざんするのでしょうか。要は中国を侵略しませんでしたという言い方。
- ・ 日本の歴史教科書には、中国を侵略した歴史の内容がありますか。
- ・ 文化的民族的思想・考え方の差異、それが与える影響とそれがもたらす将来的な潮流
- ・ 歴史学、民族学、社会学
- ・ 将来の新たな中日関係、双方の社会的需要（人材の面から）
- ・ 新思想の最前線として、清華大学はより敏感な問題を取り上げてほしい
- ・ 異なる社会制度における両国民の文化生活の方式やルート、文化活動や精神世界の豊富さの対照
- ・ 中日文化の対照研究など
- ・ 近代科学の翻訳と中日交流
- ・ 禅宗、俳句
- ・ 文化、文学、映画に関する話題

- ・ 中日両国間において、解決しがたい問題点が深刻化している中、何か本当に切実で有効で探し続けられるような解決の道や考え方があるのか。
- ・ 日本の TPP 参加は中国にどのような影響を与えるのでしょうか。日本のマスコミ界は中国を頻繁に報道する理由は何か
  - ・ 日本の宗教
  - ・ 流行
  - ・ 中国、日本、インドネシア、シンガポールチェンマイなどを扱う文化交流論を期待